

No.64 ウルリッヒ・リュックリーム ―無題―

Ulrich・Rückriem

北川フラムさんのコラム / 1998 (平成 10) 年 3 月 15 日付 立川市市報記事より

リュックリームは国際的にトップの石の彫刻家で、その石は主にアイルランドで採っている。石のもつ特質を十分に掴んで美しいモニュメントを制作したり、庭のような空間を作ったりする。石を重ねた 10 メートルほどもあるモニュメントが、ロスアンゼルスの大地震でもなんともなかったそうで、石の性質をちゃんと分かって乗せてさえいけば、その接合部にアンカーボルトを使う必要はまったくないと彼は断言する。

石ほど構造に心配がある材質はない。それは、石が成長する過程が不均質で、全部が同じ強さでないからだ。強くもあるし、逆にとても脆いものなのだ。

だから先ほどのリュックリームの話は、石こそは計算できないだけに、石に通じた達人の経験だけが信用に足りるものだということになる。

作家のメッセージ / 日本住宅公団 (現 : UR 都市機構) 「ミニ通信」より

フィンランドで採石され選び出された、Kuru Grey Granitという原鉱を200×250×50cmの寸法に削り、一つの直方体の石の塊に仕上げる。

鉄のくさびを水平、垂直に、等間隔に7カ所にあて、分割し、再びもとの形に組み合わせ、その最初の水平の割れ目まで地面に埋められる。 可視寸法:150×50×250cm